



晴天の10月26日、富士山の吉田口登山道を2合目の富士御室浅間神社まで登りました。紅葉の時期を迎え、鮮やかな色彩は言葉で失うほどの美しさでした。例年、1合目の馬返駐車場は混雑しているのですが、当日は登山客をほとんど見かけませんでした。御嶽山噴火の影響で、富士山噴火への懸念と不安が広がり始めていると感じました。

### 御嶽山噴火の教訓

## 美しい景観火山だからこそ



渡辺豊博さん

残る最も古い噴火は781年で、平安時代の「続日本紀」に記されています。平安時代には3度の大噴火を繰り返しました。中でも膨大な溶岩を噴出させ、今の青木ヶ原樹海を作った864年の「貞観噴火」は、史上最大・最悪の噴



火規模とみなされています。平安時代以降も、繰り返した噴火など火山活動の記録が残されていますが、1707年の宝永噴火の後、現在まで300年以上も不気味な沈黙が続いています。宝永噴火では、噴煙が上空20<sup>キロ</sup>に達して大量の火山灰や火山岩を広範囲に降らせ、地域を荒廃させました。

度重なる噴火は山麓の住民に被害を及ぼし、「荒ぶる山」の思いを植え付けてきました。住民は、噴火が静まることを切に願いました。静岡県富士宮市の富士山本宮浅間大社は紀元前27年、垂仁天皇の時代に、噴火のつめ痕を愛えて山霊を鎮めるために建立されたと伝えられています。

また、貞観噴火の翌年、天皇の勅命によって建立された河口浅間神社(富士河口湖町)は、拝殿の正面に「鎮火」の大きな額が掲げられています。富士山噴火の特徴は、前兆現象としての地震の多発化です。今後、私たちは危機意識を持ち、想定される被害をイメージすることが欠かせません。行政に対しては▽火山防災対策に関わる広域避難態勢の整備や事前訓練の実施▽噴火予知体制の強化▽気象庁から発信される火山情報の解析力と地元への情報発信、などが望まれます。

富士山の美しい景観美は、過去の度重なる噴火によって形成されたものです。富士山は世界文化遺産に登録されましたが、そのベースには類いまれな火山としての自然美も併せ持っていることを忘れてはなりません。

①静岡県富士宮市の富士山本宮浅間(せんげん)大社の境内に置かれている約100<sup>キロ</sup>の火山弾。いつの時代にどこで採集されたかは不明という②富士河口湖町の河口浅間(あさま)神社に掲げられている「鎮火」の額。いずれも筆者提供

(わたなべ・とよひろ 都留文科大教授)